



第二皇子
奴隸墮ち

喉の奥に
ブチ込まれる度

遠退きそうに
なる意識を
引きずり戻す

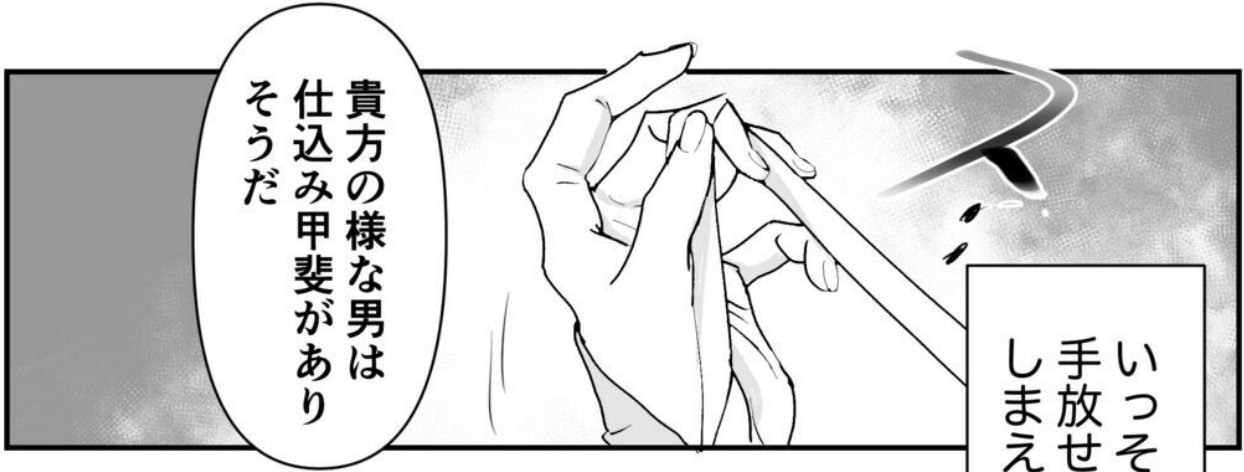
感じるのは
息苦しさと

口の中に広がる
不快な苦味

なかなか
器用であられる

暗殺を生業と
されているだけに

脳が沸騰
しそうな程の
怒りと屈辱



貴方の様な男は
仕込み甲斐があり
そうだ

いつそ意識を
手放せて
しまえたなら



どんなにマシ
かとさえ思っ



お上手ですよ

アウラ様



この男の暗殺に
失敗したのか？



どごで間違えた？



どごで失敗した？

アイツ
兄貴の忠告を
無視したことか？



それとも



反乱分子の討伐
ご苦労だったな

アウラ



「ご苦労」?



私はただ
お前が心配で

!



肝心のリーダーを
獲り逃した俺への
嫌味か?

何故
そうなる...

まさか...

フインッ



怪我してる

そのまま
行こうと
するなよ

待て



すぐに手当を――



たいしたこと
ねえよ

擦り傷だ

傷が浅いからと
油断しては
駄目だ



結構です

：休みたいので
他に用が無いのなら
失礼させて頂いて
よろしいですか？

皇太子殿下^{兄上}



…わかった



ゆっくり休め





すまない
アウラ：

お前にばかり
負担をかけさ
せて



…この国は
生まれた順番が
全てだ



貴方は
貴方の責務を
全うしてくれ

そう
この国では——



兄
第一皇子は
生まれた瞬間から

その能力や
素質に関係なく
王位継承で
次期国王

当然の様に
陽の当たる道を
歩くことを
約束されている



一方
おれ
第二皇子は

生まれた瞬間から
暗器を握らされ
暗殺者として
国を影から支える
役割が与えられる



畏怖と
嫌悪が募る



俺には



国の為と働けば
働くほど

兄には尊敬と
敬意が集まり

ただ産まれる順番が
違うというだけで

クソッ

この渴きは
満たせない

どんなに手を
敵の血で潤そうと

——思えば
戦闘の最中

傷口が
さつきより
悪化して…

なんだ…？

敵の握る刃やいばの
先が当たった
だけなのに

妙に
熱かった



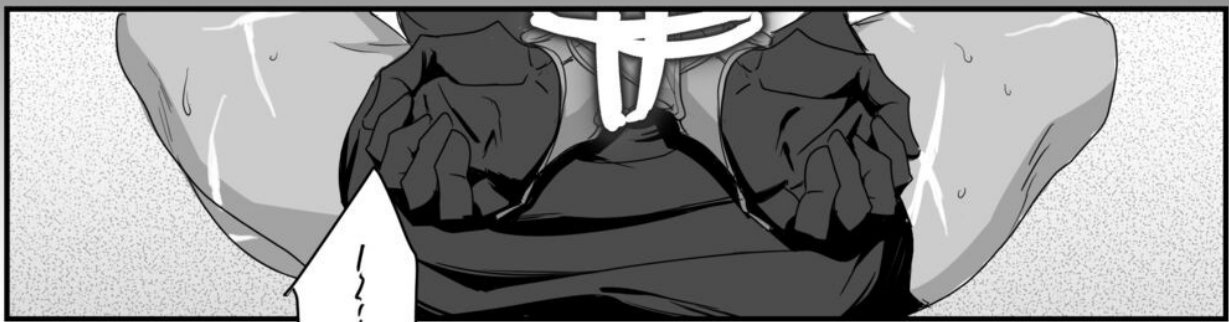
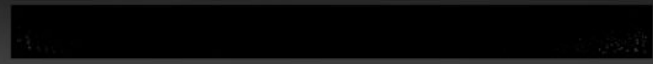
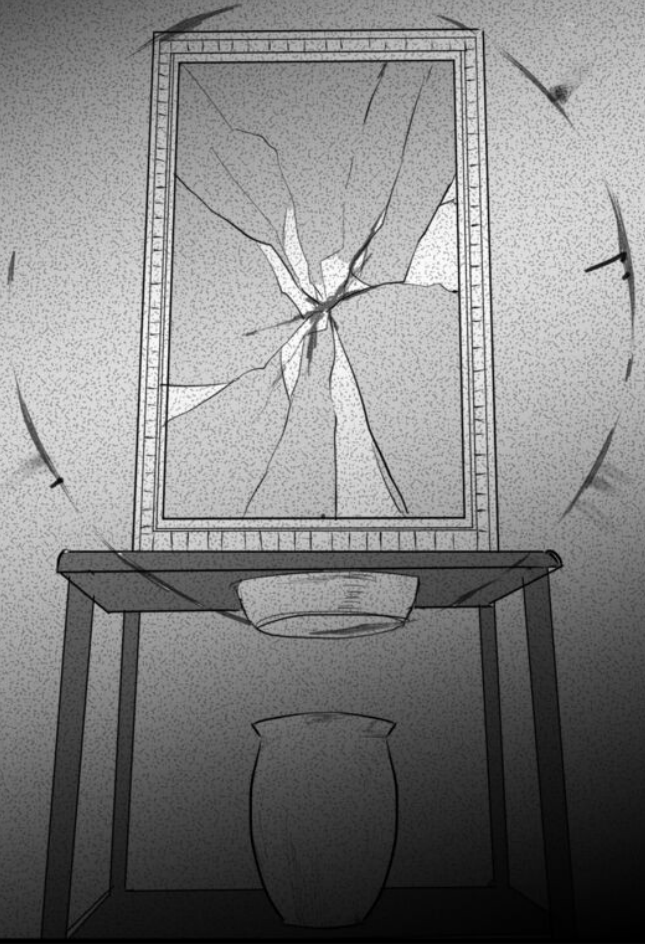
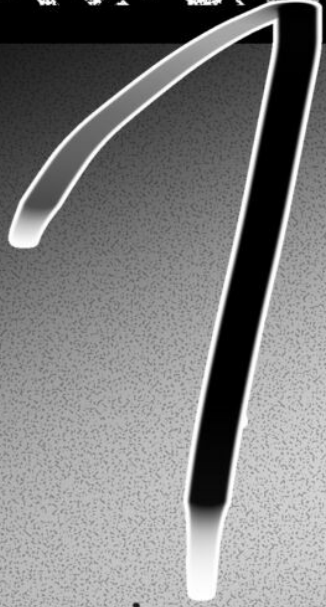


まさか...

油断した

俺と
したことが

呪われた



この国では
精神操作の魔術を
非人道的と見做し
禁術としている



しかし水面下で
それらを使用する
者が後を経たない

地位を略奪され
没落した
貴族の末裔――





テメエ
なにして…ッ

…?!



ンンッ

少しでも
齒を立てたら
耳を削ぎ落とし
ますよ？

大族に恨みを
抱いており
クーデターを
企てていた



反乱分子のリーダー
ジル・サイド



どんな
気分ですか？





自分が殺し損ねた
相手にこんな形で
汚されるのは…

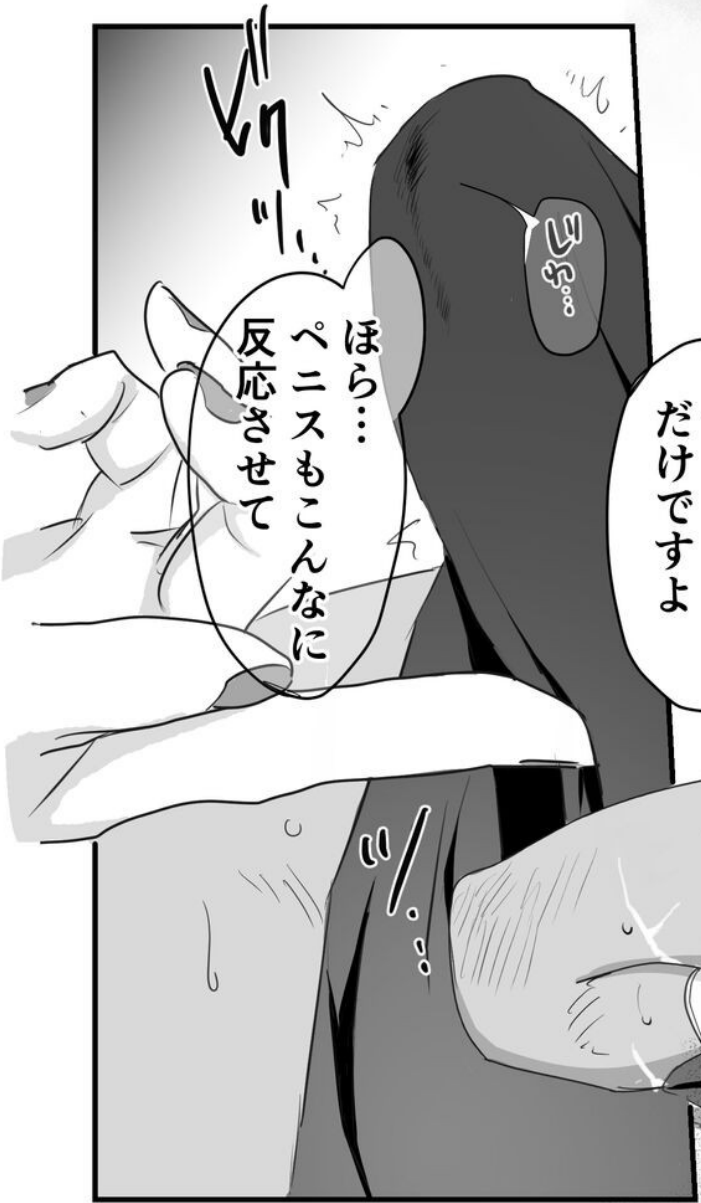
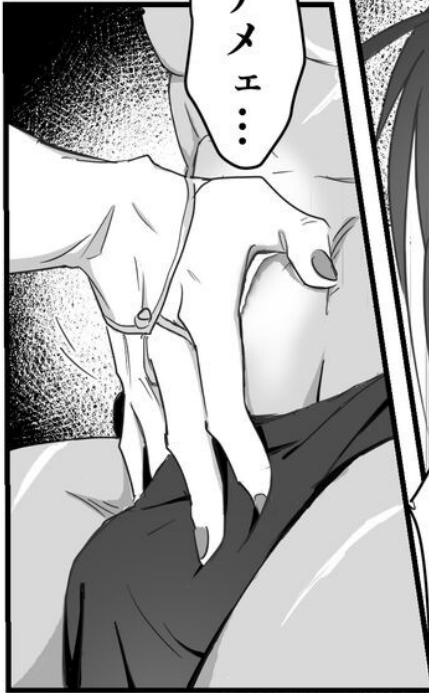


この
早漏野郎が



突っ込んだと思ったら
すぐ射精しやがって
俺から逃げ回るのに
忙しくてひとり
マス描く時間も
なかったか？

そりゃ
悪いことしたな





触るなッ

こんな膨らませて
説得力の無いお方だ
∴

やめろっ



あれ程
抵抗して
おいて

屈強な肉体を
持ってしても

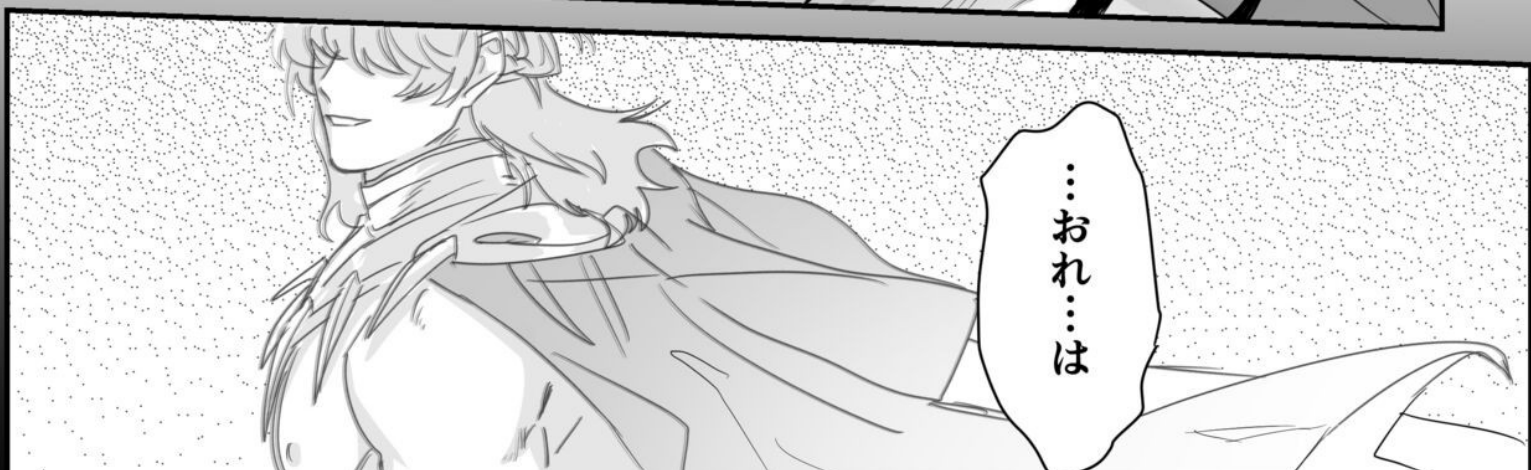
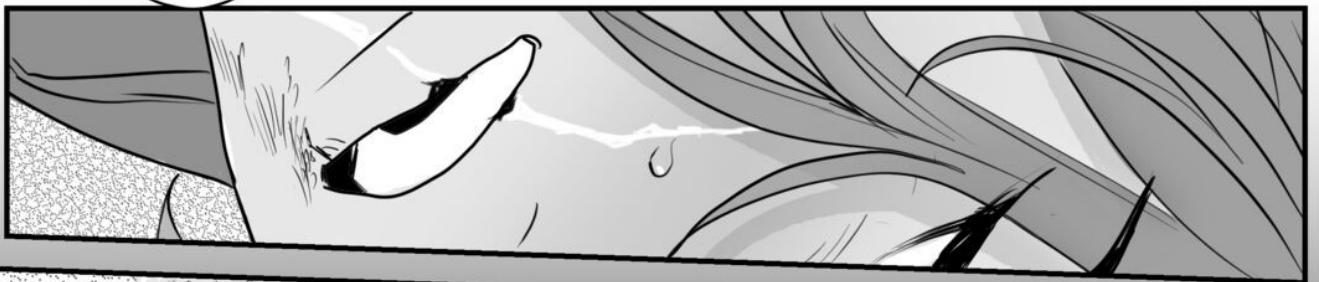
普段の貴方からは
想像つかない程
素直な身体

ほらもう
動けない

あっ…

ハアッ

ハアッ






おれは

必要と
されたい…

兄上に
認められて

臣下にも…
国民にも…


…




太陽のようなあの人の
影としてではなく

隣に並び

共に歩いて
いけるような…



…よく
分かりました



アウラ様に
そんな尊い想いが
おありだとは…



—ですが

残念です



この国に
貴方を必要とする
物などおりません

可哀想に

!!!



私以外は



所詮貴方は
不用品の二番手
として

どんなに努力
なされようと
誰も貴方の望みを
叶えることは
出来ないのです

ハア

ハア



私なら
誰からも愛されない
貴方の心を

満たして
差し上げますよ

…っう…あ…

ズン



いつ...

流石にこっちのご経験はないのか

いっ...

初々しい薄紅色をしていますね

貴方の身体にこんな可愛らしい箇所があるなんて

あ

ぐっぐっ

卑猥でゾクゾクする



こんな下種野郎に辱められて



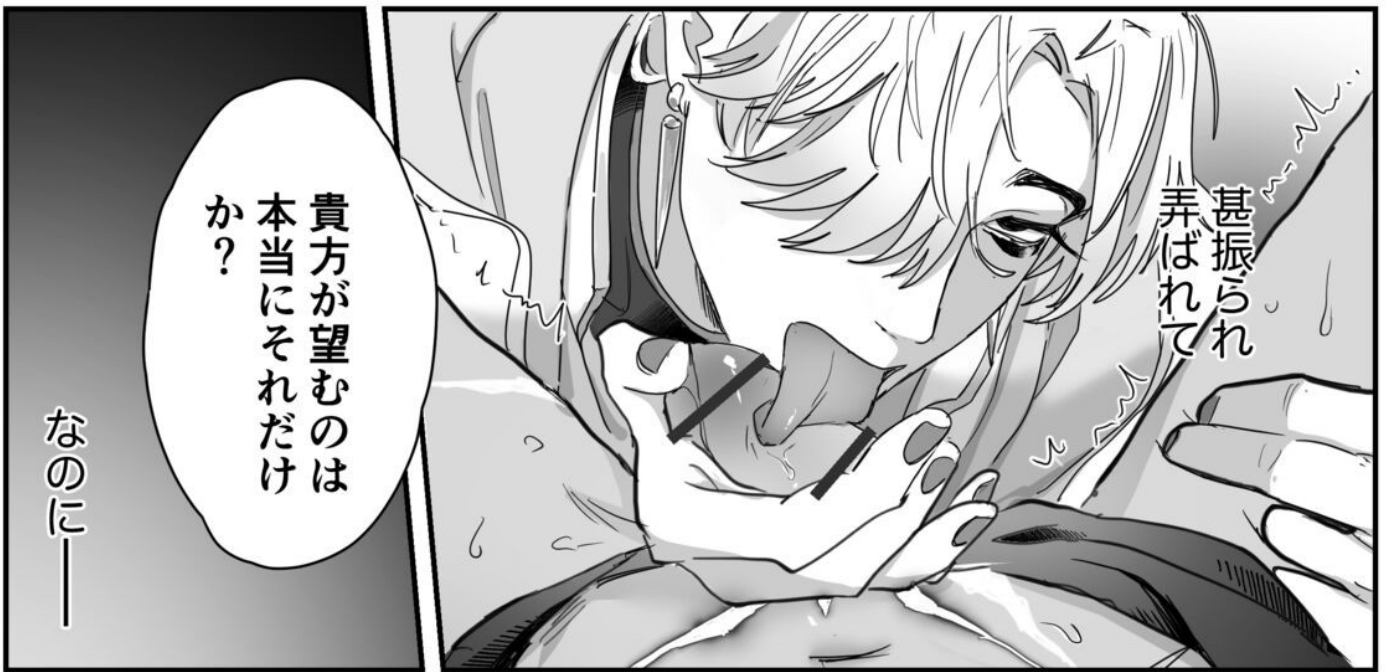
あまの

おっ...

いっ...

は—！

はま



甚振られ
弄ばれて

貴方が望むのは
本当にそれだけ
か？

なのに――



――いっ…

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん

きもち…ッ

いっ

どうしてこんなに
満たされてんだ…？



抗えない

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん



こいつの音が頭に
じんわり響いて

らさですよ
逝って





数年前貴方に
傷付けられた
右目です



見てください



結果視力は
失ったが

代わりに特殊な
コーティングに
成功しました

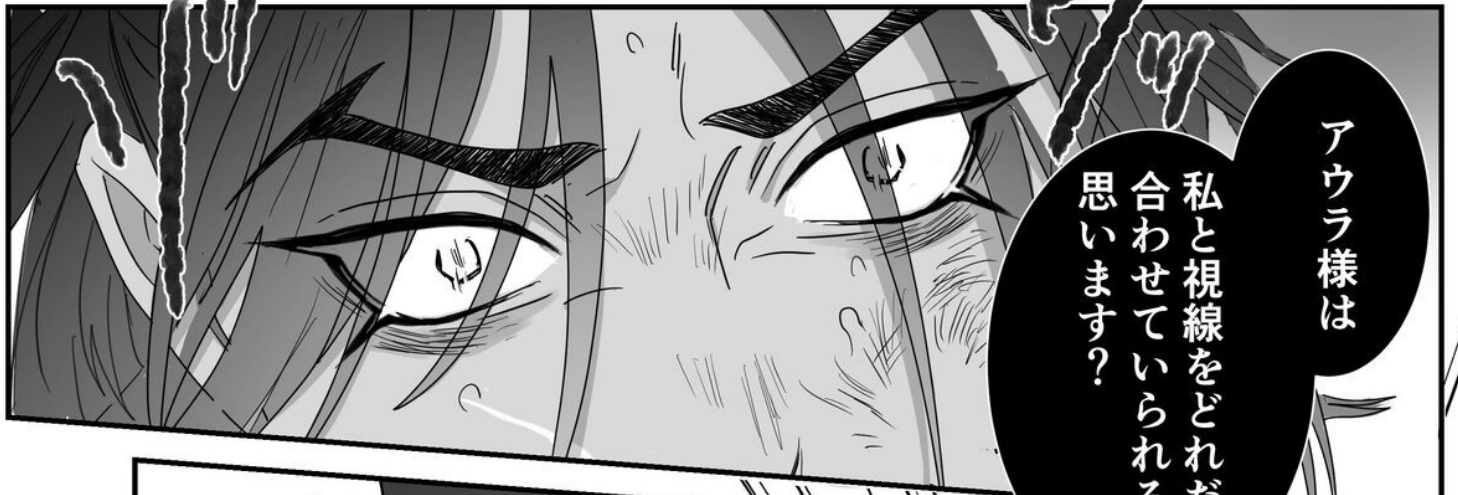


こうして数秒視線を
合わせていれば

人の脳なんて
簡単に洗えるん
ですよ



そう
特に手の込んだ
やり方をせずとも



アウラ様は
私と視線をどれだけ
合わせていられると
思いますか？



あはは
まだそんな
口が聞けますか

この
腐れ外道カッッ

地獄に
堕ちろッ!!



おっ……と





行儀良く

いちいち
言動が荒いん
ですから…

天下の
第二皇子
でしょう？

おねだり
して見せて
ください♡

あ…



あれ…
おれなに
いって

い
れて

く
れ…



お
れを

お
前
で
ら
っ
ぱ
ら
だ
し
て
ほ
し
…





「アッ...」

息が
できな

お望み通りに



はま

あ...あ



内臓が掻き分け
られて...ツ

してあげます



可愛いですよ

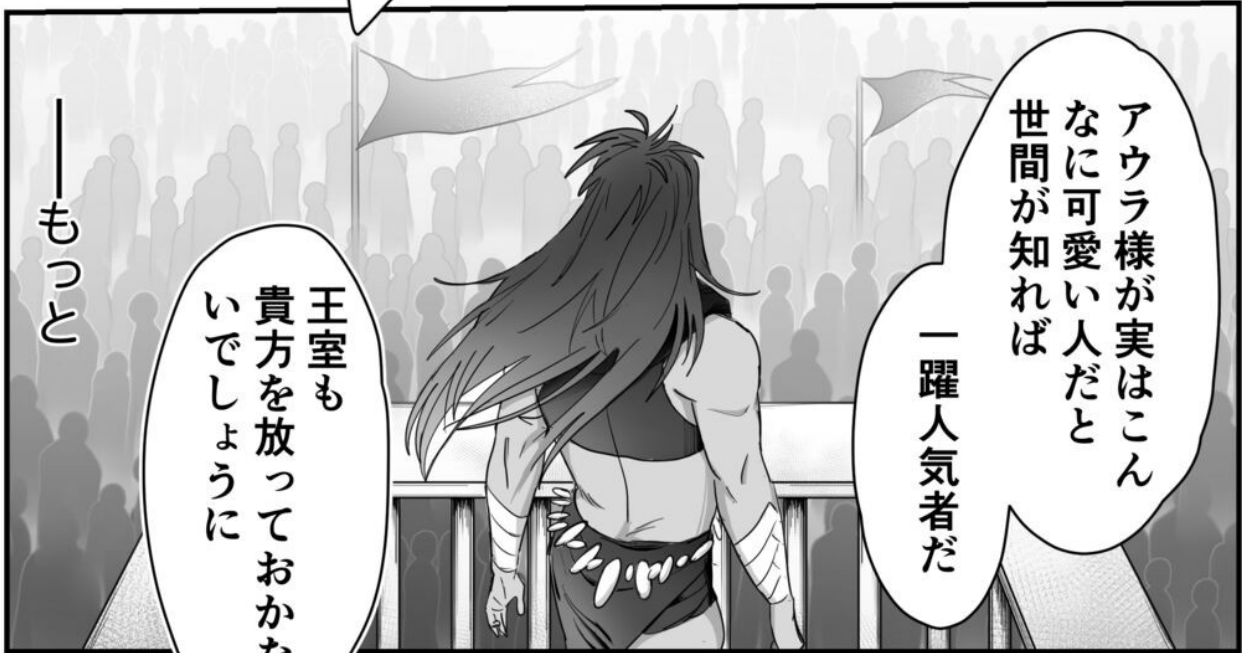
「ニッコウ」
「文いま？」



きつめに抱いて
いるのに

随分善い声で
鳴くんですね

「あっ
だっ
って」



アウラ様が実はこんな
に可愛い人だと
世間が知れば

一躍人気者だ

王室も
貴方を放っておか
ないでしょうに

——もっど



求められたい

「はま……」



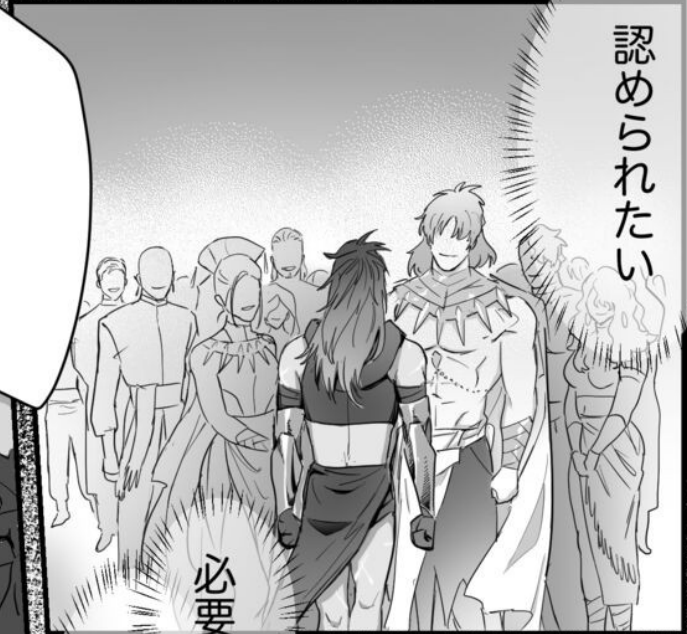
誰でも
いいから

おれを

愛して

ほし

ならば



認められたい

必要と

されたい





そうすれば
私が誰より
貴方を求め

認め

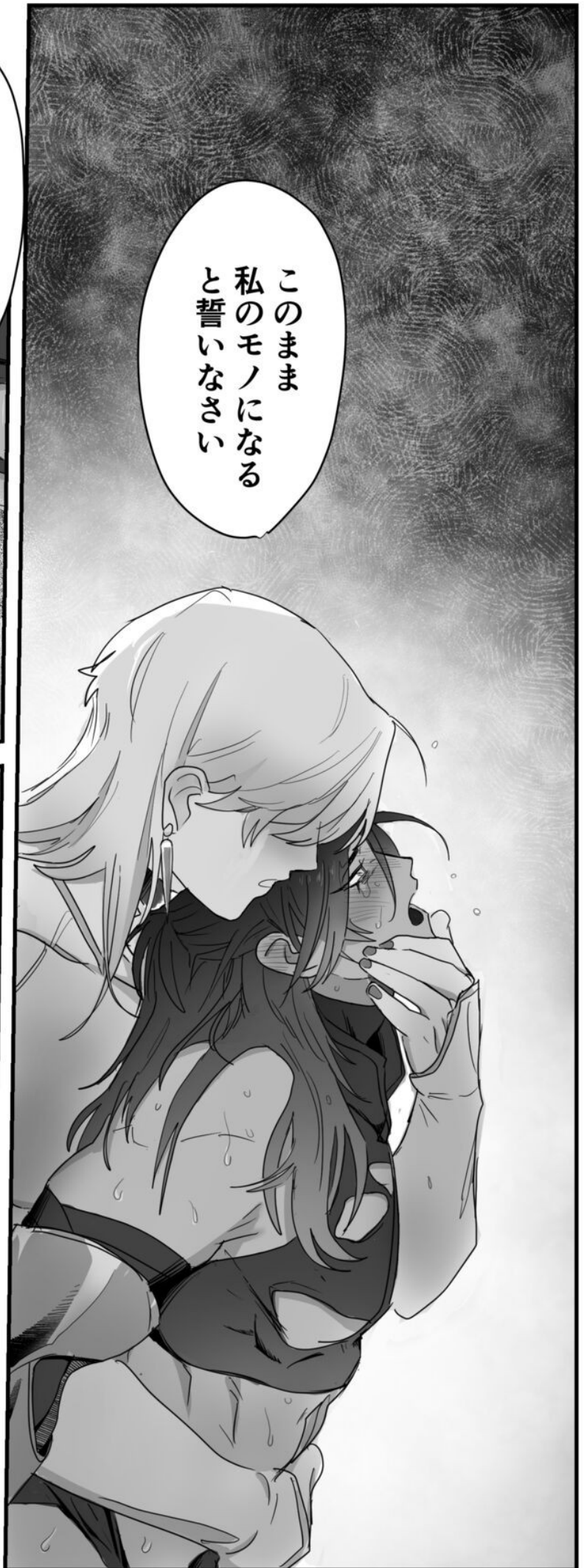
必要とし

受け入れて
くれるのか…?



愛して
差し上げます

この男が…?



このまま
私のモノになる
と誓いなさい



誓うからッ



おれを…

お…おまえの
ものになる…



骨の髄まで——

はぁッ



はぁッ





か...からだ

ナカ
カ
腔内たくさん
精子でてー！

おかしい...
あッ♡



さあ
もっと
かんで♡

がはっ♡

んっ...

ッ！
ッ！
ッ！



はッ...♡
アウラ様...

ウッ...♡

グッ...♡

ビッ...

ビッ...



正しく導いて
差し上げます...♡

私なら貴方を
最後まで愛して
差し上げます

グッ...♡





私がもらう

お前の人生は

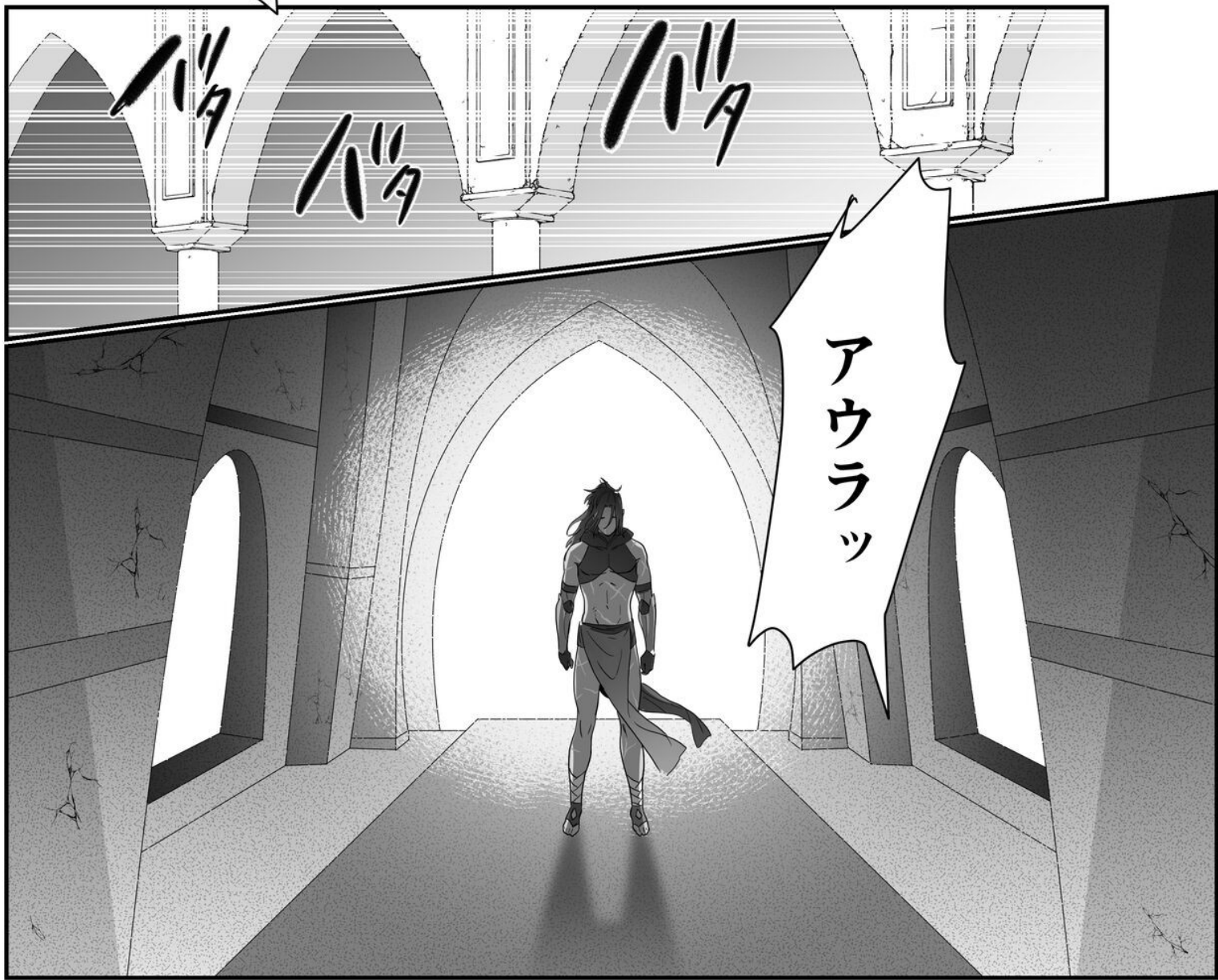




行方不明でした
アウラ様が
お戻りに…

シヤナ様

!!



バタ

バタ

バタ

アウラッ



よく戻って
来てくれた…

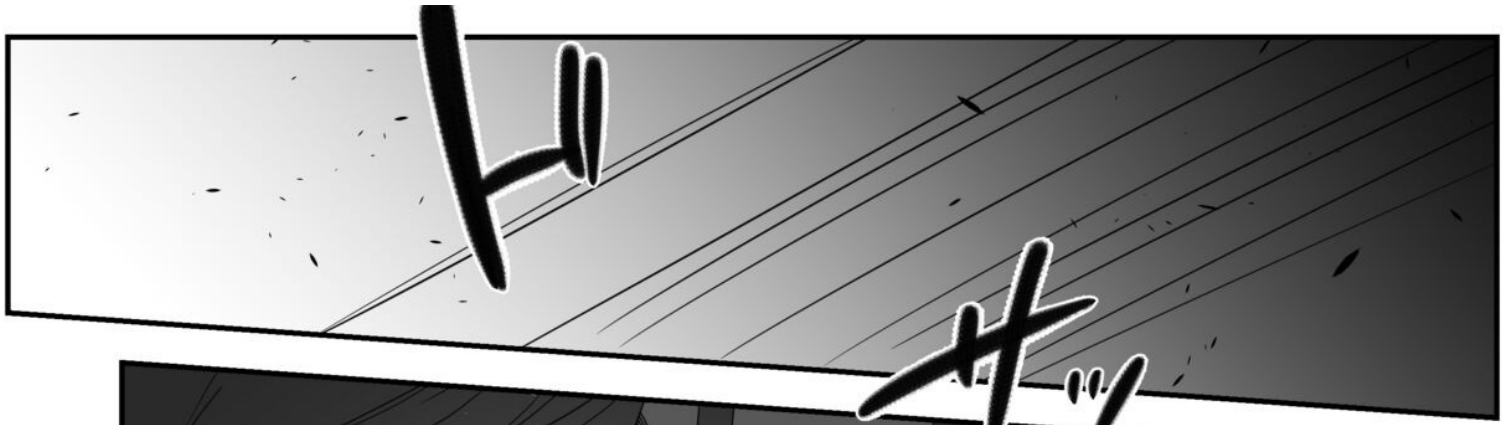
俺は愚かな人間だ
お前の心情に内心
気付いておきながら

今まで
すまなかった

見て見ぬ
振りをした

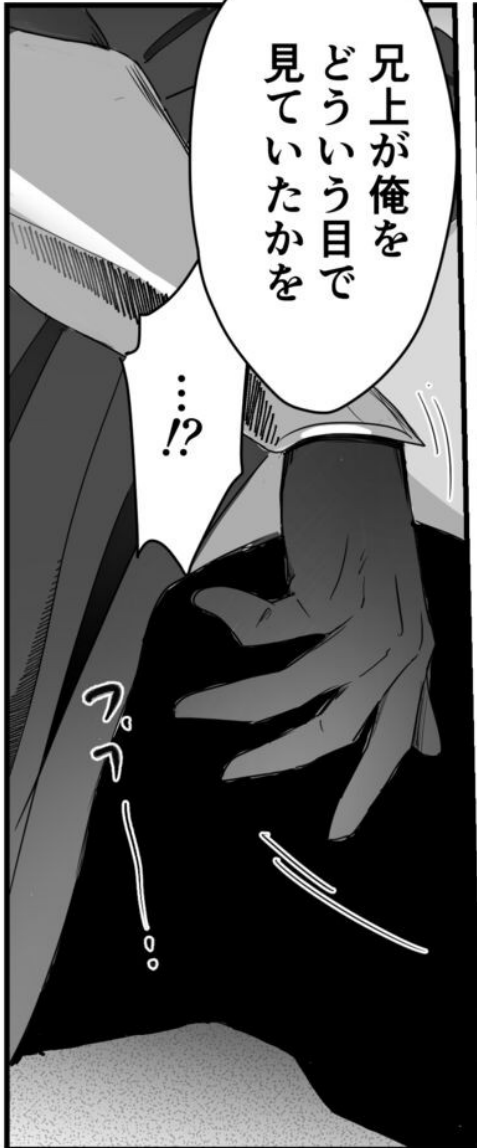
弟のお前に寄り添って
やれなかったことを
後悔しない日はない

…おれも



ガッ

ココ
城を離れてから
ようやく解った
気がする



兄上が俺を
どういう目で
見ていたかを

...!?





すげえ脈
打ってるぜ



ほら

…んっ



これはっ



血の繋がった弟に
欲情したんだろ？



んっ

ビクッ

ビクッ



俺はいつだって
誰かの言いなり
だからな

!!
...

その望み
叶えてやるよ



どのみち

俺たちも
この国も
おしまいだ



発行
パコス

シナリオ
中山酢飯

作家
メイドキメラ

お問い合わせ
perozu.comic@gmail.com